

1972.3.25

連絡先 (922) 1219  
練馬区大東学園町283 和田 氏  
振替 158887 1部 30E

# 大泉市民の集い

二一

すこしとりとめない雑談から、これは  
おもしろそうだといふ考えがまとまりか  
けている。一月二三日、一人ほどの  
「集い」のメンバーが寄つたときのこと  
だ。戦犯裁判をやろうとか、ソニー・ト  
ヨタの問題を劇に仕立てようとかの話は  
まちからあつて、どちらがハ

どうか、これが「まとまりかけて」いる  
考之の骨子である。これを骨子とする  
と、さしあたつて、次のような手続しが  
必要になるだろう。一月二三日に出され  
たさまざな案に、私の思いつきを足す  
と、次のようになる。

的なものではない。私たちのしてきたことは、これからすることの意味を、できるだけはっきりうちだそうというのが趣旨である。おもしろおかしくなれば、なおよいということだ。

権力をもっている方は、判決や処分をくだし、認定という行為をとる。刑を課したり、勅章授けたり、補償支払いをうんぬんする。いわゆる「ベトナム戦争」・人殺しでもうけている企業に、「かくかくの事実にもとづき、貴社をハイエナ企業として認定します」という認定を下して、証明書をさしあげたらどう

どうか、これが「まどまりかけて」いる  
考之の骨子である。これを骨子とする  
と、さしあたって、次のような手続きが  
必要になるだろう。一月二三日に出され  
たさまざまに、私の思いつきを足す  
と、次のようになる。

1、「ハイエナ審査会」の設置

審査会は、ベトナム戦争に反対し、日  
本企業のハイエナ的活動を許さないと考  
える人ならだれでも入れる。審査会委員  
の義務は、ハイエナと目される企業を、  
ひとつ以上「候補」として、証拠とともに  
に推举すること、推举された「候補」に  
検討を加えて、ハイエナ認定の可否の決  
定に参加すること、とにかくすればよいだ  
ろう。審査会はむろん公開である。(ハイ  
エナ企業の認定をうけるには、当社へ  
某社)の実績はなお不足しております。  
今回は残念ながら認定を辞退いたします  
が、今後がんばって栄冠をかちとる決意

でござります」といった発言も自由である。

## 2 「審査会事務局」の設置

事務局は、当面「大泉市民の集い」でひきうけることにしよう。いろいろと仕事があるはずだが、次のことが最少限必要だろう。資料の準備や整理、審査会の設営とともになういつ弋のこと、認定証の作成、認定を記念するハイエナのプロンズ像、またはワッペン・ペナント類の製作へいすれも豪華なものを心がけたい。(およびこれらの贈呈へもちろん被認定企業にお届けもしくは審査会場でお渡しする) やら、第×回審査会による新認定企業の一覧表・同事由を公示する「官報」ならぬ「ハイエナ民報」の編集・発行・配布などすい分と、事務局は多忙をきわめる

3・第一回審査会の開催  
もしかなりの賛成が得ら  
でされば第一回審査会を四

井深氏や盛田氏、本田宗一郎氏またはこの方がたの代理人が折角の招請をことわって来る、むろんそういう事態を考えておかねばならぬ。そのさい、不肖私、井深・盛田氏の代理をつとめさせていただき、十数年前の学生素人芝居の冷汗体験を何と

月はじめに開けないものか。どこか、かと思ひだしながら力演いたす覚悟を公会堂のよろな場所でやる。まず最固め、すでに井深語錄、盛田語錄の初のこと、数は少なくててもよいから、勉強をはじめております。ソニー、ホンダなど、かなり材料の集っている企業を候補として、認否の決定をしてみよう。会社側にもむろん招請状をお送りし、自薦、反論・弁明、辞退の機会をもつてもらう。当該企業の労働組合・労働者のみなさんにもぜひ参加をお願いする。外にあつてのハイエナは、内にあつても、労働者の「人間を食う」けものであることは、ソニーの労働者、職業病をおしつけられてハンストでたしかった労働者がするどく指摘していることなのだ。

おどどいの夜、堀田善衛、若き日の詩人たちの肖像をなつかしくなづて読み返していくら、こんなとつて詠み返して、

4. どうぞご意見を！

月はじめに開けないものか、どこか  
公会堂のような場所でやる、まず最初  
のこと、数は少なくともよいから  
ソニー・ヤホンダなど、かなり材料の  
集っている企業を候補として、認否  
の決定をしてみよう。会社側にもむ  
ろん招請状をお送りし、自薦、反論  
・弁明、辞退の機会をもつてもらう  
当該企業の労働組合・労働者のみなさん  
さんにもぜひ参加をお願いする。外  
にあってのハイエナは、内にあって  
も、労働者の「人間を食う」けもの  
であることは、ソニーの労働者、職  
業病をおしつけられてハンストでた  
たかっただ労働者がするどく指摘して  
いることなのだ。

か思いだしながら力演いたす覚悟を固め、すでに井深語錄、盛田語錄の勉強をはじめております。  
4・どうぞご意見を  
おとどいの夜、坂田善衛、若き日の詩人たちの肖像もをなつかしくなつて読み返していたら、こんなとうに出会つた。まず最初にレーニンの引用がしてある。「支那に対して現在、様々な『文明開化した』ハイエナどもが歯をむき出しているとはい之」古い農奴制の復活、アジア人民の英雄的デモクラシーの一掃などは果たすことができない、というくだりである。関東軍もハイエナかと思ふ主人公は、米人牧師ドハイエナ「てどんな動物かときいたときのことを思ひだす。答えは、「本当に本当に醜い動物です」、「尻を食うから」からだに毒のまわった奴が多くてしだった。ハイエナは三十年後、いつそ「文明開化」している。認定が必要なのだ。

# SONY Think Once More



(敗戦時)  
本社に抱いた決意が……初心が……  
いつのまにか消え去り  
知らず知らずのうちに、自分の進む道を  
あきらめはいないだろうか  
企業人生にはいくどかの転機がある  
自分の将来を、これまでの延長上に  
定めてしまうのは早すぎます  
もう一度考へ直してみる  
そんな必要もあるのではないだろうか



右の二枚の絵は、「漫画サンデー」連載の  
「企業劇画」(「ソニー一家」からとったもの  
です)(一月八日・一五日、旭丘光志画)。敗戦  
直前、井深大(現会長)、盛田昭夫(現社長)  
の両氏は、こうして、戦争のための科学を否  
定し、平和のため、人のための科学をと、誓  
いあつた。立派だったと思ひます。この劇画  
全体は両氏の成功物語といえますが、アメリ  
カの傀儡政府と手を結んで南ベトナムに進出  
し、戦争のさなか、ベトナム民衆の苦しむ中  
で、利益を増やすぞうとしている現状に照らし  
あわせてみたとき、この絵ほむしろ大変痛烈  
を皮肉になつてゐると、私たちは思うのです  
が……

上の絵は、私たちが苦心して描きました。  
ソニー本社の村山浩広報室長は、去年の四月  
三〇日、私たちとの会見で次のように語りました。

「私は社長、副社長のカバン持ちのような  
ことを十一年やつてきたが、人に迷惑をかけ  
ないということを教わった。他の事はどうで  
もよい、人に迷惑をかけるな、と」

これも立派なお言葉です。しかし、私たち  
の考えでは、昭和三四年以来の輸出、昭和四三  
年からの組立工場、そして今回の合弁計画は、  
それをとつてもこの絵のよくな意味しかも  
ない、ベトナムの人びとに迷惑をかける行為  
でしかない。生命が危い、家族をなくし、手  
足や目をなくしても、ラジオを聞く耳さえあ  
ればよいのですと、この絵の「商人」はそん  
な顔をしてはいませんか。

ソニーよ、もう一度考へ直して  
人殺してもうけるな／  
南ベトナム進出を中止せよ／